

文教いしかわ

石川県文教会館

No.92

－ 特集 －

1 頁：「未来を拓く心豊かな人づくりを目指して」

2・3頁：特集「これからの学校教育の方向性」

4・5頁：インタビュー『石川版インクルーシブ教育』はじまる！

石川県教育委員会 教育長 酒井 雅洋 氏

石川県教育委員会事務局学校指導課長 樋口 勝浩 氏

石川県立金沢向陽高等学校長 辻 智子 氏

石川県立いしかわ特別支援学校長 杉江 哲治 氏

「未来を拓く心豊かな人づくりを目指して」

石川県教育委員会 教育長 酒井 雅洋



教育長に就任して、早くも4ヶ月ほどが経ちました。この間、いくつかの県立学校を訪問し、授業の様子などを見学させていただきました。学校現場で子どもたち一人ひとりとしっかり向き合い、熱心に指導する先生方の真摯な姿勢を目の当たりにして、その情熱に、あらためて敬意を表するとともに、

教育の現場である学校の取組を支援していく必要性を強く感じました。

近年、少子高齢化や人口減少に加え、グローバル化の進展、AIやIoTをはじめとする先端技術の高度化など、社会全体が急速に変化しています。

そして、教育の現場は、児童生徒の多様化、教職員の多忙化、能登半島地震・奥能登豪雨からの復旧・復興など多くの課題を抱えています。

こうした中、本県の教育の指針である「石川の教育振興基本計画」は、本年度が現行第3期計画の最終年度となることから、有識者等で構成する検討会議を立ち上げ、第4期計画の策定を進めております。

国が掲げる、社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成なども踏まえつつ、本県の教育を取り巻く状況の変化や諸課題に対応した計画となるよう、しっかりと取り組んでまいります。

ふるさと教育については、創造的復興をテーマとした活動を全ての県立高等学校で行うこととしており、震災で大きな被害を受けた奥能登地域の5つの高校には、復興探究コーディネーター2名を配置し、復興に向けた課題解決に取り組む探究活動を進めています。また、奥能登地域以外の全日制県立高校においても、震災遺構の見学や、震災を経験した語り部からの話を聞くなど、能登でのフィールドワークを通じた防災教育を推進しています。

「令和の日本型学校教育」を構築し、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現するためには、学校教育の基盤的なツールとしてICTは必要不可欠なものとされています。

本県では、「GIGAスクール構想の推進」に基づき、共同調達による義務教育段階の1人1台端末の計画的

な更新整備を実施するとともに、端末の利活用のさらなる推進を図っていくこととしています。

特別支援教育の充実については、いしかわ特別支援学校の知的障害教育部門高等部において、金沢向陽高等学校の生徒と、体育や音楽などの授業やサッカーなどの部活動を合同で実施しています。

これまでの取組において、両校生徒の交流が図られるなど順調に進んでおり、引き続き、全国のモデルとなる本格的なインクルーシブ教育に取り組んでまいります。

また、近年、小松特別支援学校において、生徒数が増加しているため、寺井高等学校の敷地内に、新たな特別支援学校を整備することといたしました。令和7年度は基本計画の策定に着手し、令和11年度の開校を目指してまいります。

教職員の多忙化改善については、平成30年3月に「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」を策定し、教育委員会や学校関係者が足並みを揃えて様々な取組を進めてきた結果、時間外勤務時間の月平均及び月80時間を超える教職員の割合は減少し、教職員の意識にも変化が見られております。

しかしながら、月80時間を超える教職員はゼロとなっていないことから、引き続き、国に対して、抜本的な対策である定数改善を求めていくとともに、これまでの取組や今後の方針をわかりやすく発信しながら、多忙化改善を不断の取組として進めてまいります。

学校部活動の地域展開については、少子化が進む中においても、地域全体で部活動を支えることで、生徒のニーズに応じた多種多様な体験や、学校の垣根を越えた仲間とのつながりを作り出すなどの効果が期待できるものと考えています。

将来にわたって、生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実できるよう、引き続き市町の取組を支援してまいります。

今後とも、教育現場の様々な課題に的確に対応し、子どもたちが安心して学び、確かな学力を身に付けるとともに、厳しい時代を生き抜く人間力を身に付けることができるよう、未来を拓く心豊かな人づくりに取り組んでまいります。



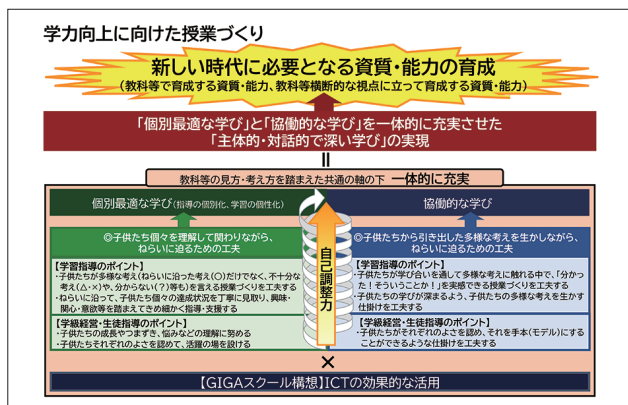
はじめに

県教育委員会事務局学校指導課では、本県の学校教育を推進するために、様々な施策を実施しております。ここでは、今年度の主な取組について、義務教育、高等学校教育、特別支援教育、生徒指導の4つに分けて紹介いたします。

1 義務教育における学力向上の取組

国は、「2020年代を通じて実現を目指す学校教育」として「令和の日本型学校教育」を示し、全ての子供たちの可能性を引き出すために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を求めています。

本県では、国の方向性を踏まえ、令和5年度より取組を進めており、今年度は、これまでの「学力向上の重点」の取組を基に、「学力向上に向けた授業づくり」(下図)を示し、全県で授業改善を進めていきます。



例えば、授業では、不十分な考えや分からないという意見でも、子供たちが隠すことなく安心して言える環境づくりを「個別最適な学び」のポイントとし、一方、多様な考えを生かしながら、子供たちが説明し合い、質問し合うという学び合いを通じて、「分かった！そういうことか！」と、クラスやグループを通して学習のねらいに迫ることを「協働的な学び」のポイントとしています。

また、こうした2つの学びを一体的に充実させる上で、有効なツールとなるのがICT機器であり、各校においては、令和2年度末に整備された

児童生徒用端末の効果的な活用法を模索し、その成果を授業の中で生かしています。

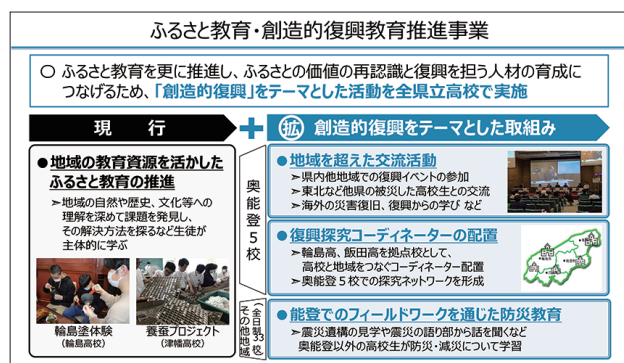
2 高等学校教育における創造的復興に向けた取組 (1) ふるさと教育・創造的復興教育推進事業

今般の災害を契機に、生徒がふるさとの価値を再認識するとともに、復興を担う人材となるよう、県内外の生徒等との交流や探究活動を充実していきます。

ふるさと教育については、創造的復興をテーマとした活動を全ての県立高等学校で行います。特に、震災で大きな被害を受けた奥能登地域の5つの高校には、その取組を後押しするため、民間のノウハウを有する復興探究コーディネーターを2名配置します。

コーディネーターは、5校を巡回しながら、地域の教育資源を活かした学習活動や県内外の高校生との交流活動の企画・実施、教員対象の指導法の研修など、創造的復興に係る探究活動の深化・充実に向けた支援を行います。

また、奥能登地域以外の全日制県立高校33校については、合計約2,000名の生徒が能登に足を運び、震災遺構の見学や震災の語り部から直接説明を聞くなど、現地でのフィールドワークを通して防災や減災などについての学びを深めていきます。



(2) 遠隔授業モデル事業

奥能登地域の高校では、入学者の減少に伴い、各校が行う全ての科目に教員を配置することが難しい状況になりつつあります。こうしたことから、ICTを活用して、学校間の授業配信による遠隔授業を試行的に実施します。今年度は、「情報」「家庭」の授業において実施し、課題等の洗い出しを行っていきます。

3 特別支援教育（インクルーシブ教育）

本年2月末、いしかわ特別支援学校知的障害教育部門高等部の新校舎が完成し、4月8日に入学式、始業式を行い、教育活動を開始しました。

新校舎は金沢向陽高校の校舎と行き来できるようになっており、新校舎の生徒玄関を両校で共用するほか、いしかわ特支の食堂を金沢向陽の生徒も利用できるように配置するなど、両校生徒の日常的な交流につながるよう工夫されています。

また、今回の移転に際しては、両校の間で、全国のモデルとなるインクルーシブ教育を実現するため、令和3年度から、両校と県教委によるプロジェクトチームにおいて、生徒交流や共同学習の検討を行い、これまでに、体育や家庭等の合同授業やサッカー部の合同練習、森本駅前イベントでの共同出店などの試行を重ねてきました。

今年度の授業においては、体育、音楽、美術などをいしかわ特支の希望者と金沢向陽の科目選択者が年間を通して合同で実施し、他の科目についても年に数回合同で実施する予定です。

加えて、特別支援学校の生徒が運営する校舎内のカフェでは、地域住民の利用により地域の方との交流も進んでおり、今後は金沢向陽の生徒と合同で運営していくことも計画しています。



こうした取組を通じて、両校生徒の日常的な交流を図り、全国のモデルとなる本格的なインクルーシブ教育を実現できるよう、しっかりと取り組んでいきます。

また、県の教育振興基本計画においても、インクルーシブ教育システムの構築として、障害のある子供とない子供が共に活動し、共に学び合う交流及び共同学習などを積極的に行っていくこととしており、いしかわ特別支援学校と金沢向陽高校との取組を契機に、他の学校においても障害理解の取組を行うなど全県的にインクルーシブ教育の推進を図っていきます。

4 生徒指導（いじめ・不登校対応）

いじめについては、教職員が、日頃から児童生徒を丁寧に観察するとともにその状況を共有し、解消に向けて組織的に対応することが重要です。

本県では、風通しのよい学校づくりを目指して、いじめ問題の学識経験者等を「いじめ対応アドバイザー」として学校に派遣し、未然防止と早期発見に努めています。

また、いじめ問題に悩む児童生徒やその保護者が、いつでも専門相談員に相談できるよう、休日を含め24時間体制の「子供SOS相談テレホン」を設置し、日々、丁寧に相談に応じています。

不登校については、家庭との連携はもとより、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家とも連携しながら、一人ひとりの実情に応じたきめ細かな相談・支援に取り組んでいます。

また、学校には行けるが教室には入れない児童生徒に対しては、教室への復帰に向け、生活リズムを見直す場として、校内に別室を確保し、別室登校する児童生徒に丁寧な指導を行っています。

県教委としても、令和5年度から県独自に、別室登校の多い学校に対して、経験豊富な再任用教諭を専任教員として配置しています。



加えて、令和3年度から「学校に行けない子どもについて考える保護者の会」を開催し、保護者が日頃の悩みや不安を緩和できるよう、互いに話し合える時間を作るとともに、必要に応じて、専門家の助言のもと、様々な相談窓口を保護者に情報提供し、関係機関に繋いでいます。

おわりに

今回は、主な取組の紹介でしたが、県教育委員会では、その他の取組を含め、本県の子供たちが生き生きとした学校生活を送ることができるよう、しっかりと施策を進めてまいります。

『石川版インクルーシブ教育』はじまる！

令和7年4月、石川県立金沢向陽高等学校敷地内に、いしかわ特別支援学校の知的障害教育部門高等部の新校舎（大場校舎）が開校しました。両校間で、障害のある生徒と障害のない生徒が共に活動し、共に学び合う共同学習や交流を行うインクルーシブ教育がスタートし、全国のモデルとなる本格的なインクルーシブ教育である『石川版インクルーシブ教育』の推進に取り組んでいます。

インタビューー 石川県文教会館 館長 橋本 祐之

館長：石川県のインクルーシブ教育がスタートし、全国から大変注目されています。本日は、杉江哲治いしかわ特別支援学校長、辻智子金沢向陽高等学校長にインタビューさせていただきました。

～『石川版インクルーシブ教育』～

館長：まずは、インクルーシブ教育について、そして『石川版インクルーシブ教育』について、お聞かせください。

辻：令和4年度の3年生が、向陽のインクルーシブ教育の定義を作成しました。インクルーシブ教育とは、「障害の有無に関わらず共に学ぶ教育システムのこと」であり、「年齢、性別、国籍、心身の障害の有無に関係なく共生していく社会を一緒に目指しませんか」と呼び掛けています。本校ではこれを大切に受け継いでいます。

杉江：全国的には、軽度の知的障害のある生徒と一般の公立高校の生徒との共同学習や交流が盛んに行われています。しかし、生徒数が100人を超える普通科高校と軽度から重度の知的障害のある生徒が100人を超える特別支援学校高等部とが、日常的で様々な場面で交流を図っていくインクルーシブ教育を推進するのは、全国的にも非常に珍しいと思います。障害の軽重に関わらず、障害のない高校生と共に学び共に活動していくという部分が石川版として挙げることができるかと思っています。

館長：本来、インクルーシブ教育というのは、障害の重度、軽度関係ないですからね。全国にも先駆けて、石川県が取り組んだということだと思います。素敵な、素晴らしい取組だなと思います。

～生徒の様子 学校の様子 保護者の様子～

館長：始まって3か月ほどですが、実際に生徒の様子・学校の様子・保護者の様子は、いかがですか。

辻：玄関を共有することから、何かしら衝突が生じる場面があるかなと思っていましたが、本当に何も起こっていない。生徒たちが“普通”なんです。スムーズにお互いの存在を受け入れて、触れ合っている姿があちこちで見られます。なぜ？と思ったときに、やっぱりこれまで「障害理解のための特別講座」を行ってきたり、文化祭でインクルーシブの発表をしたり、総合的な探究の時間の研究発表をお互いの学校に向けて行ったりと、いろいろな場面で生徒同士が触れ合っ

ていることで、気持ちの壁をスルッと超えた感じがします。

館長：実際に触れ合うことがすごく大事なんですね。いしかわの生徒の様子はいかがですか？

杉江：今、辻校長先生がおっしゃるように、いろんな形態で、そして様々な場面で、交流をしています。初めのうちは、交流に不安を抱える生徒もいたのですが、「最近どうや」と聞くと、「全然気にならん」という言葉が返ってきました。また、重度の生徒たちが建物や向陽の生徒を含め新しい環境を受け入れてくれるか不安はあったのですが、今は、安心して学校生活を送っています。

館長：3年生は1年2年と障害理解をされているわけですが、やっぱり3年生はだいぶ違いますかね。

辻：違うと思います。なぜ障害のある生徒たちと一緒に学ばなければいけないのか、ということに対して、ちょっと忸怩たる思いを持ち、それを表に出す生徒が数名いました。自分は、そういうことは出てきて当たり前と思っていたので、「何でそんなことするんや？」と頭ごなしに叱ったりせずに、「なぜそんなふうに思うのか、自分の中になぜそういう気持ちがあるのか、そこだけは忘れんと考えていこう。」と伝えました。そしたら、今年は、その生徒たちが普通に一緒に体育を楽しんでいる。彼らなりに考えて、成長したなあと感じます。

館長：先生とか保護者はどうですか？

辻：先生方には、数年間本当に忙しい思いをさせています。ただ、交流授業などを通して生徒が変わったのと同じく、彼らが変わる様子を見て、先生方も少し変わってきているところがあると思います。いしかわの生徒たちが加わるこ

とで、どのような化学反応が起こるか、不安も大きかったと思いますが、向陽の生徒が本当に自然に彼らと交わる様子を励まされて、合同授業を楽しみにしているような声も聞かれます。最終的には、生徒にも先生にも、石川のインクルーシブ教育の第1校目が向陽で本当に良かったと言ってもらえるように、そこを目指して頑張りたいと思っています。

杉江：移転前に保護者の中には、いじめや差別に対する不安を訴える方が何人もいました。いしかわの保護者の不安や悩みと、障害のない生徒の親が抱く思いを



本校のPTA会長が一番理解していました。そうした思いを踏まえ、PTA会長が自ら向陽の学園祭に伺ったり、向陽のPTA役員の方にご挨拶に行ったりするなど、積極的に向陽の保護者の中に入っていき努力をされていたのが印象的でした。今は、保護者の方からの不安や心配などは全くない状態です。

～特色ある施設設備での生徒交流～

館長：良い方向で進んでいることが、本当によく分かりました。校内には特徴的な場所も多いですが、生徒の交流の様子について、教えてください。

辻：まず、玄関は広いし明るいし、入ってくるだけで気持ちが明るくなります、本当に生徒たちに大人気。また、いしかわの園芸班の生徒たちが玄関前を綺麗にしてくれるので、向陽のJRC同好会が影響を受けて、向陽の職員玄関前にもお花が登場しました。食堂やインクルゾーンでも、両校の生徒が楽しく過ごしている姿が見られます。

杉江：加えて、地域交流スペースも交流の場として効果的役割を果たしています。開放的で、外から直接入って来こともできます。高等部の生徒がカフェを開いた時には、向陽の生徒と地域の方々が入り混じって、そして笑顔で来店する姿からは、このスペースがもっている力だなあと感じました。

館長：本当ですね、とても入りやすい雰囲気です。

辻：地域交流スペースの名前は、「絆花（はんな）カフェ」です。いしかわの生徒たちが考えてくれました。いしかわの校花の「桜」、向陽は「ひまわり」。春と夏の花がモチーフになっているということで、花を絆にして、こんな素敵な名前になりました。

杉江：いしかわの生徒が、自分たちで考え交流する場所を創っている感じがします。いしかわの生徒と向陽の生徒、そして地域の方々とで、まさにインクルーシブな空間が出来上がっていると感じています。

～共同学習 授業交流～

辻：共同学習の形態は4タイプに分けて実践しています。タイプⅠは、音楽と美術と体育の3教科で、希望されるいしかわの生徒さんが、1年間を通してこれらの授業に出席します。

館長：これは障害の重度、軽度全く関係なしでしょうか。

杉江：タイプⅠは軽度の生徒が希望して履修する共同学習です。

辻：タイプⅡは、それ以外のすべての教科。単元という単位であったりその単元の数時間であったりします

けど、こういう内容を学習するのでどうですかと示し、いしかわで希望をとっていただいています。タイプⅢは、障害の程度に関係なく全ての生徒同士が行う交流で、体育の時間のボッチャとか行事など。タイプⅣは、それ以外の部活動や生徒会活動での共同です。

杉江：先日は避難訓練も一緒に行いました。今後は、両校生徒会で話し合いながら、重度の生徒との交流も少しずつ進めていきたいです。

館長：生徒会同士が動いてくれると楽しみです。

辻：この前、タイプⅠの音楽の授業で、ペアワークを教員が指示したときに、向陽といしかわの生徒が2人一組のペアになっていました。教員に聞くと、生徒同士で話し合ったりじゃんけんしたりして、普通に別れたらそうだったということで、そこも自然で嬉しかったです。

杉江：向陽の先生方の工夫や配慮で、両校生徒による支え合いや学び合いが実現できています。何より授業担当の向陽の先生方に楽しいと言ってもらえることで、いしかわの先生方の意欲が高まっています。

館長：お互いに支え合うというところまで、いっているんですね。感動しました。

～地域の方々の反応～

杉江：これまで向陽高校が地域の方々と培ってきた関係性のおかげで、地域の方々が大変良くしてくれます。両校の入学式にはお祝いにとエアリーフローラを寄贈してくださったり、町会長さんが絆花カフェのチラシを作って配付してくださったりと、地域の方々に可愛がっていただいている実感が生徒にも先生方にもあります。

～今後に向けて～

杉江：向陽といしかわの生徒たちが生き生きと共に活動している姿を見て、向陽高校で学びたいという生徒が増えていくことが本校の使命だと思います。『石川版インクルーシブ教育』が金沢向陽高校との間でスタートしたことで、障害のある生徒たちが教育だけでなく世の中の仕組みを変えていくきっかけになって欲しいと思います。

辻：生徒たちは本当に、他の学校では出来ない経験、生活をしています。来年からは、「共生社会と福祉」という新設科目もスタートします。こういう学びを通して、多様な方々への理解が深められるよう指導していきながら、教員を目指す生徒、共生社会を創ってきたい生徒、職場や上級学校で障害のある方に真っ先に寄り添えるような生徒たちを輩出できる高校になりたいと思っています。



気持ち明るくなります、本当に生徒たちに大人気。また、いしかわの園芸班の生徒たちが玄関前を綺麗にしてくれるので、向陽のJRC同好会が影響を受けて、向陽の職員玄関前にもお花が登場しました。食堂やインクルゾーンでも、両校の生徒が楽しく過ごしている姿が見られます。



◆第38回いしかわ県民陶芸展 アマチュア作品大募集!!

★作品募集★

作品規定 ・未発表の自作品（1人1作品のみ）
 ・一辺が50cm以内、縦横高さの合計が120cm以内
 ・団体作品は、展示時に90cm×90cmの範囲内

受付日時 令和8年1月17日（土） 10:00～15:00

受付場所 石川県文教会館 4階和室

出品料 一般：2,000円、青少年（大学生以下）：無料

★作品展示★

展示期間 令和8年1月25日（日）～2月1日（日）
 9:00～16:30（最終日は15:00まで）

展示会場 石川県文教会館 4階和室（※入場無料）



第37回
入賞作



第37回大賞 小野 富貴絵
 「私の小さな光
 ～This little light of mine.
 I'm gonna let it shine～」

令和7年度「文教国際理解講座」のご案内

～ネイティブスピーカーによる異文化理解講座です～

講座名	内 容	曜日	講座時間
英米文化 初級	挨拶程度の会話をしよう （英検3級程度）	木	午前・午後
英米文化 準中級	英語で簡単な会話ができるように （英検準2級程度）	水木	午前・午後 午前
英米文化 中級	英語で日常の会話ができるように （英検2級程度）	火木	午前 午後
英米文化 上級	日本語同様に会話ができるように （英検準1級程度）	火	午後

★講座時間（100分）

（午前）10:00～11:40

（午後）18:30～20:10

実施期間：令和7年5月～

令和8年2月

対 象：学生（高校生）から一般まで

定 員：1講座20名程度

受講料：36,000円（年35回）

途中入会は、入会後の回数分（教材は実費負担）



文教国際理解講座

検索



「文教国際理解講座」、「教育文化研究会」どの講座も定員に空きがある場合は、途中入会できますのでお問い合わせください。

令和7年度「教育文化研究会」のご案内

～アジア・日本の文化に触れてみませんか～

	研究会名	定員	年会費	内 容	日 時
I	もっと知りたいアジア	10名	3,000円 全6回	アジア文化圏の地理、歴史、時事問題に関心を寄せ、ときにはビーズやアジア料理などもたのしむ	奇数月第2土曜日 14:00～16:00
II	源氏物語を楽しむ	10名	6,000円 全12回	『源氏物語』の原文をはじめ、さまざまな文献にあたり古典の奥深さを味わう	第2土曜日 10:00～12:00
III	茶 道 入 門 教 室	10名	11,000円 全22回	初心者のための茶道入門～お茶のいただき方、お点前の基本や茶席での所作を学ぶ～（流派：表千家）	第1・3月曜日 12:00～16:00

令和7年度 教育史セミナー 開催のご案内

日 時：令和7年11月4日（火） 14:30～16:00

講 師：鳥居 和代 氏（金沢大学人間社会研究域学校教育系 教授）

会 場：石川県文教会館 大会議室（401・402会議室）

テーマ：「学校資料がひらく教育史の未来」

内 容：学校資料とは、いわゆる学校所蔵（所在）資料だけでなく、かつて学校にあって現在は別の施設等が所蔵するもの、教員個人が作成・保管するもの、および保護者や児童生徒に配付されたものを含む、学校に関連するあらゆる文字、映像・音声、モノ資料を指します。



本講演では、研究調査の具体例をもとに、学校資料がひらく教育史の可能性や未来について考えるとともに、教育DX時代における学校資料のデジタル化の展望と課題を探ります。

令和7年度 教育資料収集整理事業

当財団では、県内に存在する貴重な教育資料を収集し、保管や展示を行っています。これらの教育資料は当館の資料展示室や教具室で閲覧することができます。（要予約）



教育資料収集整理事業「教育資料ロビー展」のご案内

1Fロビーにて開催中

教育資料ロビー展 検索

「特色ある学校の活動」として、県内にある学校の取組の様子を順次展示・紹介しています。

現在どの学校が展示されているかはホームページでご確認ください。

You Tubeでの発信も行っていますので、是非ご覧ください！！



☆企画展「高等学校・特別支援学校の教育活動の紹介」を県庁19F展望ロビーで実施します。（7/28～8/12）

令和7年度 文教アートウェイブ

～演劇・演奏会・リサイタル等にご利用ください～



文教アートウェイブとは、地域文化の振興を図ることを目的に、地域で活躍する芸術文化団体に舞台発表の場を提供する文教会館事業です。今年も感動のひとときをお届けします。

《今年度の公演(予定)》

★公演の日程等が変更になる場合があります。

金沢高等学校吹奏楽部 定期演奏会 ◆入場無料	令和7年 8月2日(土) 13:30～(開場13:00)
金沢市立大徳中学校吹奏楽部 第12回定期演奏会 ◆入場無料	令和7年 9月20日(土) 14:00～(開場13:30)
金沢桜丘高等学校吹奏楽部 クリスマスコンサート2025 ◆入場無料	令和7年12月20日(土) 17:30～(開場17:00)



令和8年度の文教アートウェイブ公演募集!!

地域文化の振興を図ることを目的に演劇や演奏会等の公演を希望される方に利用料と冷暖房費を無料でホールをお使いいただけます。（照明設備費・舞台技術費等有料）

実施時期：令和8年度中で、原則として9月から12月を除きます。

*但し、実施予定日の6か月前までにホールの予約が入っていない場合は除外日でも申し込みをすることができます。

申込期間：令和7年5月1日（木）～令和8年1月31日（土）

申込方法：詳しくは石川県文教会館HPで確認いただくか、お電話でお問い合わせください。

TEL 076-262-7311

文教会館の施設ご利用について

～教育文化の発信に 研修・会議・交流の場に～



◎ホール590席

◎ピアノは、

ヤマハ・スタインウェイを

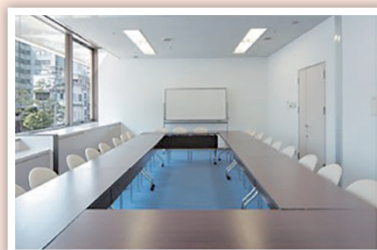
ご用意しております（有料）



少人数の打ち合わせから研修・講演会まで様々な用途やご利用人数に合わせた会議室をご用意しています。
また、和室、茶室、応接室などのご用意もあり、どなたでもご利用いただけます。

備品の貸出（有料・無料）・Wi-Fi（無料：一部非対応の会議室あり）有ります。

お気軽にお問い合わせ下さい。



喫茶コーナー『エース』よりお知らせ

（営業）平日 10：00～15：00

～会議室をご利用の場合～

飲み物を**5杯以上**のご注文で、
1杯200円（税込）で提供させていただきます。
ぜひご利用ください。



カレーライスセット
食後のコーヒー付き



MENU

【軽食】

トースト（マーガリンと苺ジャム付き）	250円
カレー（ライス・うどん）	420円
ピラフ（エビ・五目）お味噌汁付き	420円
パスタ（ナポリタン・ミートソース）	420円

【飲み物】

コーヒー（ホット・アイス）	310円
紅茶（ホット）	310円
オレンジジュース	260円
ケーキ（抹茶チーズ・レアチーズ）	440円

【セット】

軽食と飲み物セット （コーヒーまたは紅茶）	680円
--------------------------	------

（※価格はすべて税込です）

都心の教育文化のオアシス「文教会館」をぜひご利用ください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

